

良食味米生産“チャレンジ特A”に向けた技術確立

対象者 JAこうか特別栽培米生産部会

【普及活動のねらい・対象】

JAこうか特別栽培米生産部会(会員719名、栽培面積872ha(コシヒカリ293ha、キヌヒカリ444ha、日本晴135ha))の生産面積は、管内「環境こだわり農業」水稻面積の約4割を占め、一般栽培米に比べて1等米比率が常に上回るなど、高品質米を生産しています。

「安全・安心はもとより良食味米を生産する」という信念のもと、特別栽培米生産部会では、売れる米づくりを目指し、良食味米生産“チャレンジ特A”の取り組みを開始されました。そこで、前年産で良食味米を生産された優良な生産者の特別栽培米の生育、収量、品質を調査するため展示ほを地域ごとに設置し、検討を行うこととしました。

【普及活動の経過】

1. 良食味米生産技術検討のための展示ほ設置
甲賀地域農業センター水田営農班で地域別に6か所の優良な生産者による展示ほを設け、コシヒカリ、キヌヒカリの生育、収量、品質などを調査しました。

コシヒカリは倒伏が見られた地点では収量も食味値も低く、キヌヒカリでは多収になると食味値が低くなることを確認できました(図1)。また、外観品質は、5地点で優良な生産者の整粒歩合が高くなりました。

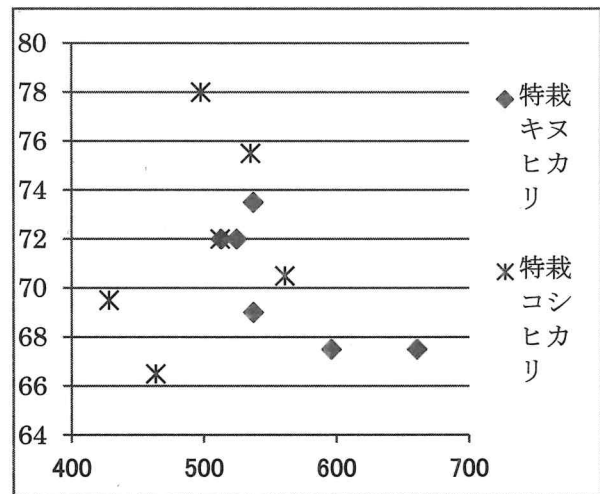


図1 収量と食味値

2. 平成26年産特別栽培米の食味値、外観品質の測定結果の概要

特別栽培米コシヒカリ435点、キヌヒカリ752点、日本晴90点を食味計と穀粒判別機で測定し、食味値、外観品質を確認しました。その結果、タンパク質含有率は25年より平均で0.7%高くなり、食味値は5ポイント程度低下しました。これは8月の日照不足の影響により、登熟が進まず籾の充実が阻害され未熟粒の発生がかなり高くなったことによるものと考えられました。

測定結果は、JAから各生産者にお知らせされ、良食味米生産に向けた情報のフィードバックが図られました。また、甲賀地域農業センターで取りまとめ、地域別・地帯別の技術確立の基礎資料として活用されます。

【普及活動の成果】

平成26年度は、展示ほの設置等を通じて特別栽培米の品質や生産技術の現状が確認でき、関係者で共有を図り、生産者に示すことができました。今後も、食味の改善をさらに推進するため、調査結果の分析、検討を行い、土づくりや肥培管理の改善に向けた技術支援を行う予定です。(中山)